

## 斜面地集落における高齢者の生活行動の実態に関する一考察 —静岡県下田市須崎を対象として—

### A Study on the Condition of daily Activities of the Elderly in the Slope Settlement -A case study of Suzaki, Shimoda City, Shizuoka Prefecture-

○藤田 歩<sup>1</sup>, 山中新太郎<sup>2</sup>\*Ayumi Fujita<sup>1</sup>, Shintaro Yamanaka<sup>2</sup>

The aim to clarify issues in the slope settlement from now on. We research daily activities and living area of the elderly in the slope settlement with time, hour, horizontal travel distance and vertical travel distance. Also, we explore pedestrian environment of the village and awareness of the residents to the village. We find a clue to make it possible to live in the area for the elderly until the end.

#### 1. 序論

##### 1-1 研究背景

日本では近年高齢化と核家族化の進行により、介護者のいない高齢者の単身世帯や夫婦のみの世帯が増加している。そのため高齢者が住み慣れた地域で最期まで生き生きと暮らし続けることは難しい。一方で、60歳以上の男女のうち現在住んでいる地域に住み続けたいと考えている割合は93%<sup>1)</sup>と高く、高齢者が安心して住み続けるための施策が必要である。

さらに斜面地集落では全ての障壁を取り除くのが困難であること、地方の農村・漁村においては生活利便施設が居住者の徒歩圏内から離れていることが多く、地域居住が比較的難しい現状と言える。

そのため斜面地を含む地域において、地域居住をし続けている人の生活について把握し、地域居住を可能にする建築やまちのあり方についての手掛かりや問題点を把握することが必要であると考えられる。

##### 1-2 本研究の目的

斜面地集落に居住する高齢者の、時間・時刻・垂直移動距離・水平移動距離を含んだ生活行動・生活圏域の把握を行う。さらに街の中の屋外状況と居住者の意識を把握することで、居住者の工夫により住みこなされている箇所・街の中で整備が必要な箇所を明らかにし、今後のまちの課題を明確にすることを本研究の目的とする。

##### 1-3 研究方法

①GPSロガーを用いて、居住者の生活行動の把握を行う。②アンケート調査により、対象地域居住者が感じる街に対する意識を調査する。③現地調査により地区内の斜面や階段の幅員、整備状況、街路における車両通風の可否、宅地の接道状況の把握を行う。

##### 1-4 研究の位置づけ

斜面地の高齢者居住に関する研究として、志賀ら<sup>2)</sup>はモビリティ能力と住宅の立地条件によって交通手段やケアサービスなどの社会的サービスの選択や利用頻度が大きく異なることを明らかにしている。また山下ら<sup>3)</sup>は、車が離合できる方が外出頻度が高いこと、また高齢になるにつれ徒歩移動や路線バス・タクシーの割合が高くなり、近隣は徒歩、遠くは公共交通というパターンが多いことを明らかにしている。

しかし斜面地に居住する高齢者の生活動線を明確に把握し、地域居住について言及したものは少ない。そのため本研究では、斜面地に居住する高齢者の生活動線を把握し、地域居住と建築・まちの関わり的一端を明らかにすることを目的とする。

##### 1-5 研究対象

研究対象は静岡県下田市の南に位置する須崎地区とする。須崎は漁業集落であり、漁船を陸置きした湾岸を中心に宅地が造成されたため、多くの住宅が斜面地に位置する。また人口は1,402人、世帯数は657世帯であるが、近年人口は減少傾向である<sup>4)</sup>。

#### 2. 予備調査概要

##### 2-1 調査方法

予備調査概要を以下に示す(Table.1)。被験者は調査期間中、外出時のみGPSロガーを持ち歩く。操作は家を出る際・帰宅する際の機械の電源の入切のみとし、位置情報を補完するため、外出先を所定用紙に普通名詞で記入してもらう。(例:「スーパー」「お寺」)

Table.1 survey overview

調査期間	2019年8月5日(月)~8月11日(日)
対象者	須崎に居住する高齢者11名(女性)
調査方法	①GPSロガーの持ち歩きにより、5秒に1度、外出時の居場所を記録する。 ②所定用紙に外出先を記入

1: 日大理工・院(前)・建築 2: 日大理工・教員・建築

## 2-2 被験者概要

調査対象者は、「わらいの輪<sup>注</sup>」の参加者のうち、協力の得られた11名とした。高齢者にとって体力の低下する後期高齢者となるまでの時期における活動や生活習慣が、その後の地域居住に大きく影響するため、被験者は60歳以上の女性とし、自ら車や徒歩移動のできる方々とした。また11名の住居は須崎地区内にあるが、道路状況や標高等の居住条件は異なる (Table.2)。

Table.2 subject overview

被験者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
居住地前面への車両付け	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○
標高(m)	33.3	21.6	42.1	48.1	48.3	5.0	3.6	21.0	17.5	69.9	58.0
畑所有	有	有	有	有	有	不明	不明	不明	不明	有	有
畑への移動手段(※1)	車	斜+車	斜	斜+車	歩					斜+車	車

※1「車」自家用車 「斜」斜面地の歩行 「歩」平坦地の歩行

## 2-3 被験者例

被験者 no.2 の車道から住宅までの歩行ルート上のポイントを図7に示す。車道からA地点～E地点の順に通過していくが、多数の階段が位置することがわかる。

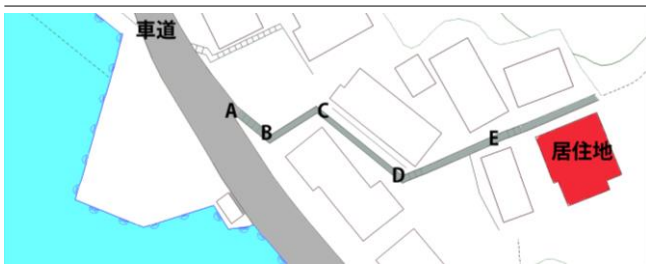


Figure1. route point of no.2

## 3. 予備調査結果

### 3-1 外出場所と移動手段

被験者11名の日常生活行動として、商店への買い物が最も多く挙げられた。また購買行動の多くが下田駅中心部で行われ、調査期間中に須崎地区内での購買行動を行う被験者は1人のみであった。

また11名中10名は必ず車を利用し、下田駅周辺の大型商店を利用しており (例: Figure.2), 1名は1週間のうちバスと自家用車を併用していた。被験者の多くが車を主要な移動手段としていることがわかった。

### 3-2 外出時間帯

被験者の外出時間帯を見ると、ゴミ出しや畑への農作業は早朝に行い、下田市中心部への買い物やその他

の遠征はおよそ午後4時までには済ませている場合が多い (Table.3)。地区外から16時以降に帰宅する外出行動は、1日かかりのものが半数を占め、ほとんどの被験者が、日没前に須崎内に帰宅していると言える。

Table.3 Time to go home in a week (n=11)

帰宅時間	～10時	～13時	～16時	16時～
地区内のみ外出	15	12	7	20
地区外を含む外出	1	11	12	4

## 3-3 畑へのアクセス

山地の間に畑を所有し、家庭内消費程度の農業を行う居住者も多く、11名のうち少なくとも7名が畑を所有していた (Table.2)。農作業は高齢期にもできる活動の1つであるが、居住地に隣接した場所に畑を所有する被験者はおらず、斜面地の歩行若しくは自家用車を利用して行く場合が多い (例: Figure.3)。そのため高齢期の農作業継続は、自家用車の運転や斜面地の不可の影響を受けていると思われる。



Figure.2 route example (no.1)

Figure.3 route example (no.4)

## 4. 今後の展望

今後は以下の方法で研究を進めていく。①須崎地区内における階段・通路の有無、および被験者の住居・畑・駐車場の位置把握を行う。②予備調査は夏季のお盆の時期であったため、外出しやすい気候時に、本調査として外出行動調査を被験者数を増やし行う。③わらいの輪参加者全員を対象に、属性・外出行動また街に対する意識調査を行い、街の中の課題や問題点を明確にする。

### 【脚注と参考文献】

注) わらいの輪: 月に1度開催される、須崎居住者を対象とした集まり。地域住民の女性の1人が3年程前に、向こう三軒の見守りを皆であることを目的に立ち上げた。対象年齢に規定はないが、現在100名程度の会員がおり、毎月約50名程度の年配の方々が参加し、住民主体で考えた健康講座等の活動を行う。

### 参考文献

- 1) 内閣府 令和元年版高齢社会白書 (全体版) 令和元年版
- 2) 志賀勉, 竹下輝和, 牧敦司, 中山和也, 横山朋和: 斜面住宅地における定住環境形成に関する研究その1～6, 日本建築学会大会学術講演梗概集 1995年08月, 1996年09月, 1997年09月
- 3) 山下弘樹, 福田展淳, 神力潔司: 居住者アンケートによる北九州市八幡東区の斜面地居住者の居住及び交通環境, 住み替え意向等に関する研究, 日本建築学会九州支部研究報告 第52号 2013年3月
- 4) 下田市HP 「人口・世帯数の推移 (住民基本台帳)」 令和元年9月18日閲覧